

平成 31 年度

事業計画書

平成 31 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日まで

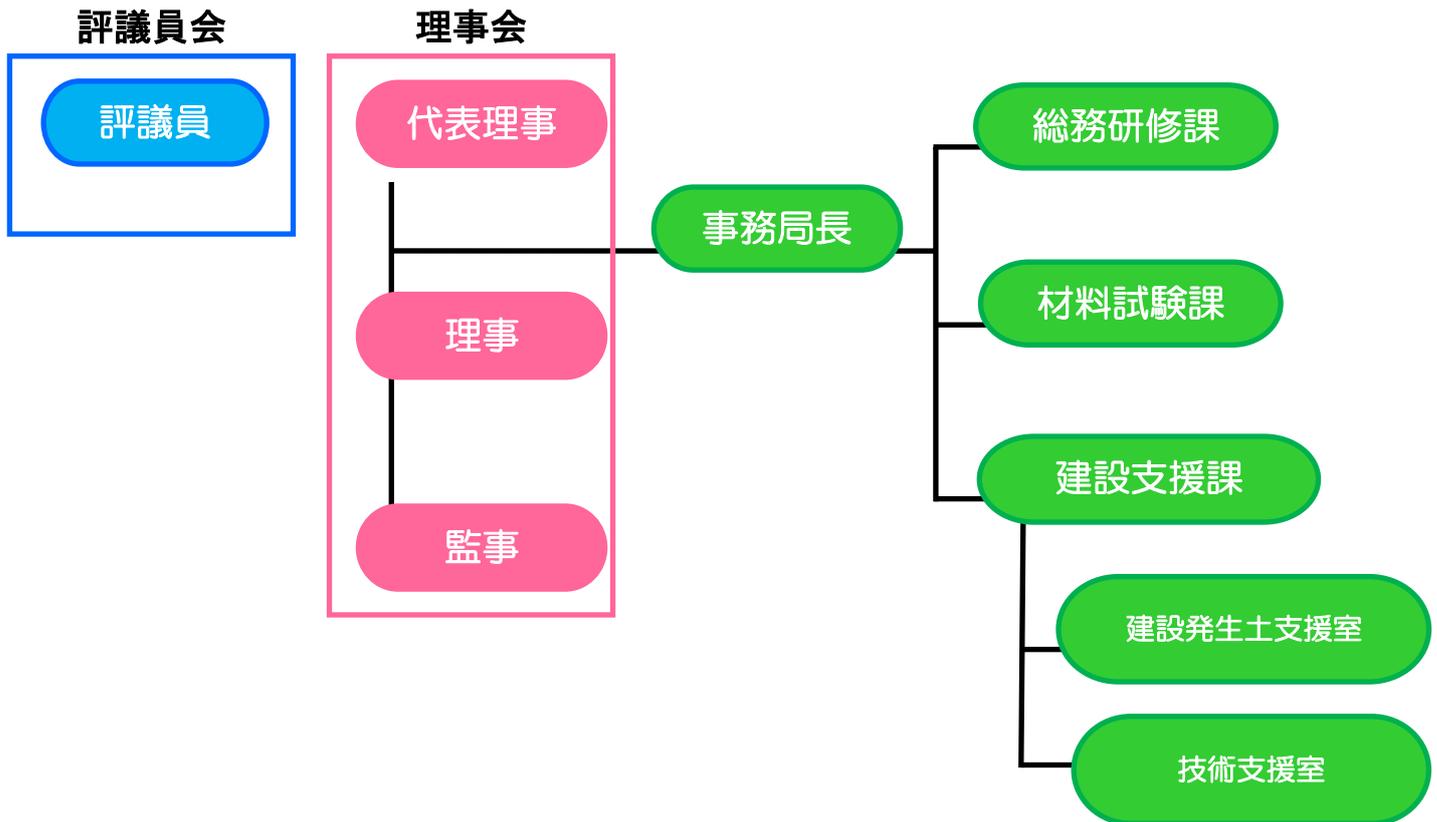


公益財団法人 鳥取県建設技術センター
Tottori Construction Technology Center

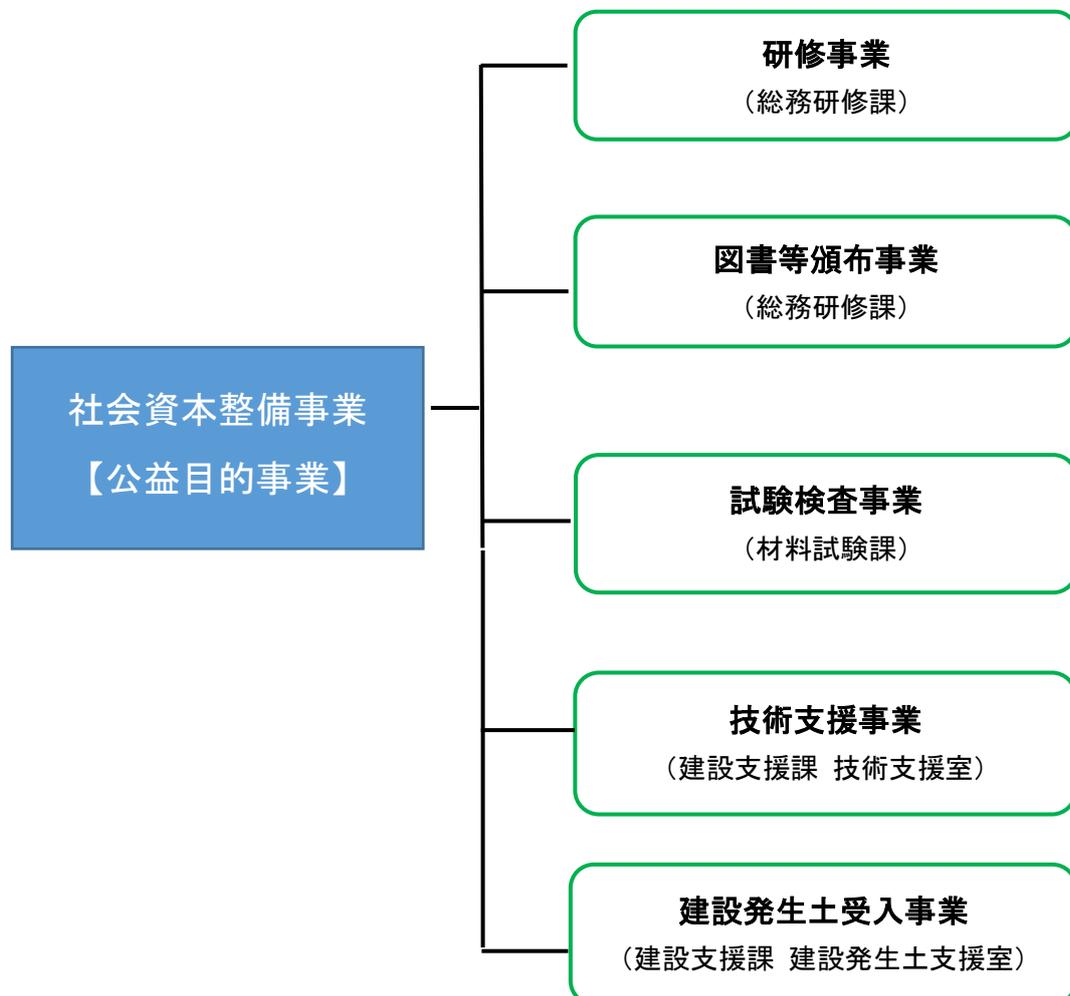
目 次

・ 組織	1 頁
・ 平成 31 年度事業一覧表	1 頁
・ 事務局職員	2 頁
・ 経営改善計画の進捗について	3 頁
1 社会資本整備事業	4～15 頁
1-1 研修事業	(4 頁)
1-1-1 自主研修	(4～5 頁)
1-1-2 受託研修	(6 頁)
1-1-3 その他の研修	(6 頁)
1-2 図書等頒布事業	(7 頁)
1-3 試験検査事業	(8 頁)
1-4 技術支援事業	(9 頁)
1-4-1 技術支援業務	(9～11 頁)
1-4-2 インフラ維持管理支援	(11～12 頁)
1-5 建設発生土受入事業	(13～15 頁)
2 法人の運営・管理の運営	16 頁

【組織】



【H31 年度事業一覽表】



事務局職員

(H31.3.1 現在)

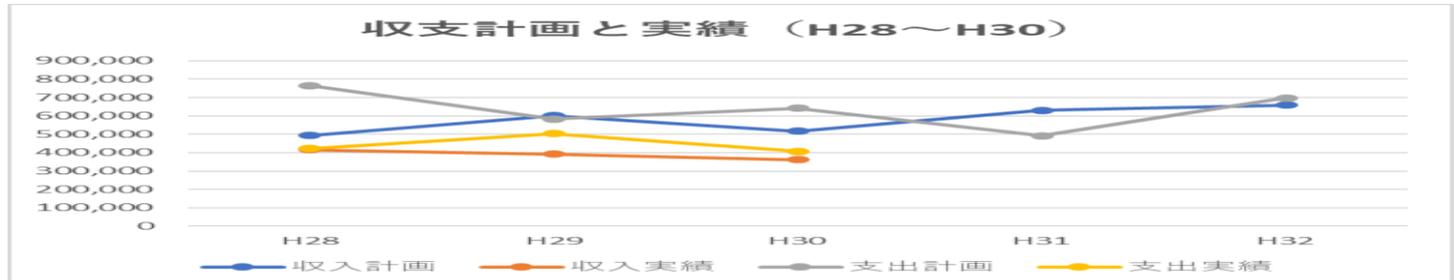
所 属	職 名	氏 名	主な担当	備考
	事務局長 (兼) 総務研修課長	浅田 正人	事務局の総括、総務研修課の総括	
総務研修課	参 与	三原 正司	建設産業育成事務局の総括	
	主 幹	井上 純一	総務事務の総括	
	主 幹	前田 民子	研修業務の総括	
	副主幹	浦田 純子	総務事務、情報発信	
	主 事	藤井 成之	研修業務、新規事業	
材料試験課	課 長	宮脇 泰一郎	材料試験課の総括	
	参 与	松井 信作	調査研究業務の総括	
	主 幹	大西 慶祐	試験業務、調査研究業務	
建設支援課	課 長	澤 邦洋	建設支援課の総括	県職員
建設発生土支援室	室 長	吉田 和史	建設発生土支援室の総括	
	参 与	前田 健文	発生土の受入業務、事業所の整備 (第2三谷、小原、山上事業所等)	
	技 師	岡野 博樹	発生土の受入業務、事業所の整備 (帽子取、岩美事業所等)	
技術支援室	課長 (兼) 室長	澤 邦洋	技術支援室の総括	
	参 与	赤川 定	企画調整の総括	
	参 与	反田 敏博	コンクリート (橋梁) 診断の総括	
	副主幹	竺原 努	公共事業支援の総括	
	副主幹	石井 一彦	積算業務、道路台帳等	
	副主幹	井上 和大	橋梁IT・BA業務、積算業務等	
	技 師	川本 和也	積算業務、UAV・ICT 業務等	

○経営改善計画の進捗について

(1) 収支状況

単位：千円

	H28	H29	H30（見込み）	H31	H32
収入計画	493,892	600,595	517,716	629,293	659,351
支出計画	764,902	583,052	641,292	492,321	697,124
収支差（計画）	△ 271,010	17,543	△ 123,576	136,972	△ 37,773
収支差累計		△ 377,043			
収入実績	415,026	392,568	361,042		
支出実績	421,801	502,814	407,941		
収支差（実績）	△ 6,775	△ 110,246	△ 46,899		
収支差累計		△ 163,920			



〔収支状況〕 H28～H30 の3年間の収支差の合計額は、計画：△377,043千円に対し△163,920千円となった。（留保資金により補填している。）

〔主な理由〕 建設発生土受入事業について、計画していた「山上事業所」「鶴田事業所」の中止等により新規開設に伴う準備工事費を先送りしたことから赤字幅が減少した。

また、技術支援事業では、市町村に対する積算業務や橋梁アドバイザー業務の拡大により計画に対し約46,000千円の黒字となり赤字幅が減少した。

〔課題〕 安定した経営を保つためには、県内全域の適地へ受入事業所の早期開設
現在実施している市町村に対する技術支援の更なる拡充と新たな技術支援の普及

(2) 取組状況と成果 (H28～H30)

事業	目標	取組状況・成果
研修	・「技術者の健全な育成を支える研修」「インフラ長寿命化計画を支える研修」「若手技術者研修の拡充」の3本柱に基づく研修の充実	・災害対応研修、インフラ維持管理研修、若手技術者基礎研修等を拡充した。 ・年間4,400名の目標を達成した。
試験	・ISO17025の維持 ・新規試験導入 ・調査研究業務の充実	・H30 JNLA (ISO17025) 登録更新 ・土質の三軸試験、コンクリート残存膨張量試験 (H28) レディミストコンクリートの練混ぜに用いる水の試験 (H30) ・ポラスコンクリート研究に向けたコンクリートの試験練りを行い、基本配合を決定した。
技術	・市町村に対する発注者支援事業の拡充 ・世代交代に伴う技術力の維持、向上	・橋梁補修アドバイザー業務の拡充及び災害復旧技術支援 ・資格取得（コンクリート診断士1名、公共工事事業品質確保技術者4名）
残土	・新規事業所の開設	・東中西で事業所候補地の調査を行い、美成・帽子取第2事業所の目処がついた

(3) 課題

事業	課題
研修	新人・若手技術者の育成及び現場で役立つ実践的な研修の開催
試験	事業量の確保、専門性の高い三軸試験等の継続に向けた技術力の維持向上、調査研究業務の具体化
技術支援	・今後とも技術支援内容の充実及び職員の技術力向上による業務拡大。 ・老朽化するインフラの効果的・効率的な維持管理支援。
建設残土	適地を選定し、早期に新規事業所を開設する。

1 社会資本整備事業

1-1 研修事業

H31 年度のポイント

【自主研修】

○研修業務は、経営改善計画に基づき、「技術者の健全な育成を支える研修」「インフラ長寿命化計画を支える研修」「若手技術者研修の拡充」の3つの柱のもと、H30年度の研修の検証結果を踏まえた研修内容の充実、基礎研修の更なる充実、情報系（ICT）に関する研修の充実等により、現場管理ができる技術者の育成を目指した研修を開催します。

【鳥取県等からの受託研修】

○県土整備部技術職員研修を継続して受託します。

【その他の研修】

○建設産業育成研修（鳥取県建設分野担い手確保・育成連携協議会）を継続して行います。

1-1-1 自主研修

業務名	内 容			予 算 H31 年度 (H30 年度)												
① 自主研修 (継続)	<table border="1" data-bbox="240 1167 1034 1361"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>講座数</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>31 年度計画</td> <td>49</td> <td>4,600 人</td> </tr> <tr> <td>30 年度計画</td> <td>47</td> <td>4,600 人</td> </tr> <tr> <td>対前年</td> <td>2</td> <td>0 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>《現場管理ができる技術者の育成》</p> <p>①新人・若手技術者の建設産業への定着につながるよう、現場で必要となる基礎的知識や技術を丁寧に解説するとともに、実技・演習を取り入れた現場で役立つ実践的な研修を実施します。 「新人技術者のための施工技術基礎」、「建設業新人ビジネスマナー研修」「コンクリートの品質管理」、「道路橋点検診断」等</p> <p>②大阪北部地震、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震等の大規模災害が頻発していることから、その対応方法に関する研修を実施します。 「激甚化する豪雨災害への対応」、「土砂災害」等</p> <p>③AI（人工知能）やICT（情報伝達技術）の急速な進展に対応するための研修を実施します。 「i-constructionにおける3次元データ活用」 「建設現場におけるICT活用」等</p>			区分	講座数	受講者数	31 年度計画	49	4,600 人	30 年度計画	47	4,600 人	対前年	2	0 人	18,997 千円 (19,592 千円) ※H31.10.1以降 に計画している 研修は消費税 10%で計上
区分	講座数	受講者数														
31 年度計画	49	4,600 人														
30 年度計画	47	4,600 人														
対前年	2	0 人														

H31 年度自主研修計画一覧表

区分	研修名	レベル	加点 研修	C P D 研修			受講 者数	
				CPDS	コンサル 協会	建築士 会		
一般的な 土木の施 工・管理 等	1	現場管理スキルアップ	初～中級	技術	○	○		100
	2	安全管理（リスクアセスメント）	初～中級	技術	○	○	○	200
	3	事故を減らすための安全管理	初～中級	技術	○	○	○	220
	4	落石の事例と対策	中～上級	技術	○	○		60
	5	仮設工	初～中級	技術	○	○	○	80
	6	工事施工中の環境配慮	初～中級	技術	○	○	○	120
	7	土質・地質による工法選定	中～上級	技術	○	○	○	100
	8	軟弱地盤対策	中～上級	技術	○	○	○	100
	9	労働安全管理と足場	初～中級	技術	○	○	○	70
	10	建築工事の品質管理	中～上級	技術	○	○	○	50
	11	電気・機械設備の品質管理	中～上級	技術	○	○	○	50
	12	土木施工管理（共通編）	初～中級	技術	○	○		120
	13	施工計画	初～中級	技術	○	○		160
	14	受発注者のための品質確保	中～上級	技術	○	○		120
	15	標準見積書の作成 ※	初～中級	技術	○	○	○	80
	16	土木技術者の倫理 ※	初～中級		○	○	○	50
	17	「新」コンクリートの品質管理	初～中級	技術	○	○	○	50
	18	「新」i-construction における 3 次元データ活用	初～中級		○	○	○	60
	19	「新」建設現場における ICT 活用 ※	初～中級	技術	○	○	○	60
	20	「新」現場の原価管理演習	初～中級	技術	○	○		80
	21	「隔」新技術・新工法 ※	中～上級	技術	○	○	○	100
インフラ の長寿命 化	22	事例から学ぶコンクリート構造物ひび割れ補修	中～上級	技術	○	○	○	120
	23	道路構造物の維持管理	中～上級	技術	○	○		110
	24	橋梁維持補修（施工）	中～上級	技術	○	○		80
	25	橋梁点検と補修計画	中～上級		○	○		50
	26	河川構造物の維持管理	中～上級	技術	○	○		80
	27	下水道の維持管理	中～上級	技術	○	○	○	70
	28	「新」道路橋点検診断	初～中級		○	○		50
	29	「新」のり面の維持管理	中～上級	技術	○	○		80
	災害対応	30	事例から学ぶ災害対応（地震編）	初～中級	技術	○	○	○
31		土砂災害	初～中級	技術	○	○	○	100
32		「新」激甚化する豪雨災害への対応	初～中級	技術	○	○	○	100
33		「新」災害査定資料の作成 ※	初～中級			○		40
若手技術 者基礎研 修	34	基礎から学ぶ土木工事積算	初 級		○	○		70
	35	新人技術者のための公共工事基礎	新 人	技術	○			60
	36	建設工事の入札制度 ※	初～中級	技術	○			150
	37	現場で役立つやさしい構造力学	新 人	技術	○	○	○	80
	38	新人・若手技術者のための土木材料品質管理	初 級	技術	○	○	○	50
	39	新人技術者のための土質力学（基礎）	新 人	技術	○	○	○	90
	40	新人技術者のための水理学	新 人	技術	○	○	○	50
	41	「新」建設業新人ビジネスマナー研修	新 人	人			○	50
	42	「新」新人技術者のための施工技術基礎	新 人	技術	○	○	○	60
	43	「新」補償業務の円滑な進め方	新人～初			○		40
資格取得	44	補償業務管理士受験準備研修会	資 格			○		40
経営者	45	経営管理Ⅰ ※	経営者	経営				280
	46	経営管理Ⅱ ※	経営者	経営				120
人材育成	47	コミュニケーション ※	全 員	人			○	160
	48	リーダーシップ ※	全 員	人			○	120
	49	人権に関する講習会 ※	全 員	人				170
計							4,600	

(注) ※は半日研修

1-1-2 鳥取県等からの受託研修

業 務 名	内 容	予 算 H31 年度 (H30 年度)
①県土整備部 技術職員研修 (継続)	技術職員の技術力向上、良質な工事執行の確保及び工事の監督業務の適正化を目的として、県土整備部技術職員研修を継続して受託します。 (鳥取県県土整備部技術企画課で研修内容を検討中)	3,882 千円 (3,882 千円)
②林道橋点検診断技術研修	予定なし	0 千円 (807 千円)
③下水道排水設備工事責任技術者 「更新及び更新講習」	受託内容の不備により中止	0 千円 (627 千円)
計		3,882 千円 (5,316 千円)

1-1-3 その他の研修

業 務 名	内 容	予 算 H31 年度 (H30 年度)
とっとり建設産業の魅力発信講座	将来の県内建設産業の担い手確保を目的として、小中学生を対象に建設産業への関心や就業意識を高めるための講座を開催します。 ・講座内容：出前説明会(近隣の3小学校と1中学校)を開催予定	0 千円 (500 千円)
(鳥取県建設分野担い手確保・育成連携協議会：平成29年1月設立)	鳥取県建設分野担い手確保・育成協議会では、引き続き、各機関と連携しながら将来を見据えた持続可能な建設産業を目指し、建設産業の担い手の確保・育成のため各事業を推進していきます。 ①ホームページ保守管理 ・SNSを活用した情報発信：技術者リレーインタビュー等 ②研修等運営 ・けんせつ絵本おはなし会、魅力発信フォトコンテスト(小中学生一般) ・職場体験学習(中学生) ・魅力発信ガイダンス、UAV測量演習、現場見学会、資格取得支援等(高校) ・リスクマネジメント講座(大学) ・1級、2級土木施工管理技士資格取得支援(既就労者) ③協議会運営 ・人材育成コーディネーター人件費	4,860 千円 (7,123 千円) 建設業振興基金 0 千円 (2,000 千円) 鳥取県 (担い手協議会) 4,860 千円 (5,123 千円)
計		4,860 千円 (7,623 千円)

1-2 図書等頒布事業

H31年度のポイント

- 建設工事に関する図書等の販売をします。
- けんせつ絵本の貸出、けんせつ絵本のおはなし会を開催します。

業務名	内 容	予算 H31年度 (H30年度)																																			
図書頒布	<p>主に設計書等複写用プリペイドカードを販売します。</p> <p>H31年度図書等頒布一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>図 書 名</th> <th>部数</th> <th>販売単価 (円)</th> <th>H31 収入 (千円)</th> <th>H30 収入 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計、測量、地質・土質 調査共通仕様書</td> <td>5</td> <td>2,800</td> <td>14</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>道路工事関係技術便覧</td> <td>10</td> <td>1,450</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>土木工事施工管理ハンド ブック</td> <td>0</td> <td>4,100</td> <td>0</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>河川・海岸便覧 ほか3種</td> <td>10</td> <td>1,050</td> <td>11</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>プリペイドカード (設計書等複写用)</td> <td>420</td> <td>3,100</td> <td>1,302</td> <td>1,302</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>445</td> <td></td> <td>1,341</td> <td>1,440</td> </tr> </tbody> </table>	図 書 名	部数	販売単価 (円)	H31 収入 (千円)	H30 収入 (千円)	設計、測量、地質・土質 調査共通仕様書	5	2,800	14	28	道路工事関係技術便覧	10	1,450	14	14	土木工事施工管理ハンド ブック	0	4,100	0	82	河川・海岸便覧 ほか3種	10	1,050	11	14	プリペイドカード (設計書等複写用)	420	3,100	1,302	1,302	計	445		1,341	1,440	1,341千円 (1,440千円)
図 書 名	部数	販売単価 (円)	H31 収入 (千円)	H30 収入 (千円)																																	
設計、測量、地質・土質 調査共通仕様書	5	2,800	14	28																																	
道路工事関係技術便覧	10	1,450	14	14																																	
土木工事施工管理ハンド ブック	0	4,100	0	82																																	
河川・海岸便覧 ほか3種	10	1,050	11	14																																	
プリペイドカード (設計書等複写用)	420	3,100	1,302	1,302																																	
計	445		1,341	1,440																																	

業 務 名	内 容	予算(支出) H31年度 (H30年度)
「けんせつ絵本の貸出」及び「けんせつ絵本のおはなし会とワークショップ」	<p>子どもたちや保護者に建設産業の役割や大切さを知っていただくため、鳥取県の図書館ネットワークを活用し、県内の公立図書館へ、けんせつ絵本の貸出します。</p> <p>貸出は、5ヶ所の図書館を予定しています。</p> <p>また、「けんせつ絵本のおはなし会とワークショップ」を鳥取県土木施工管理技士会中部女性会等と協働し、児童クラブ及び公立図書館で実施します。</p> <p>図書館5ヶ所、児童クラブ3ヶ所を予定しています。</p>	200 (200)

1-3 試験検査事業

H31年度のポイント

収入確保、専門性の高い試験の技術力の維持及び向上、調査研究に向けて事業を実施します。

- 橋梁維持、補修等で今後も継続して需要が見込まれるコンクリートの維持管理に関する試験、専門性の高い土質の三軸試験等をPRし、事業量の確保に努めます。
- 鳥取大学等関係機関と連携しながら、技術力の維持・向上に努めるとともに、調査研究を進めます。
- 今後必要となる機器更新費用を賄うため、H31年5月からコンクリート強度試験（圧縮・曲げ）平均約10%、土質試験平均約8%の試験手数料を改定します。

1 収入確保に向けた取り組み

継続して需要が見込まれるコンクリートの維持管理に関する試験、専門性の高い土質の三軸圧縮試験等関係機関へPR等を行い、事業量を確保し、収入増に努めます。

【試験項目別収入】

試験分類	H31年度予算 A		H30年度予算 B		増減額 A-B	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
土質	2,027	23,841	2,211	23,993	△184	△152
骨材	939	6,432	939	6,369	0	63
コンクリート	26,529	34,641	24,911	30,795	1,618	3,846
アスファルト	597	1,227	597	1,215	0	12
鋼材	749	1,018	749	1,008	0	10
水	20	252	0	0	20	252
計	30,861	67,411	29,407	63,380	1,454	4,031

※H31年度予算Aの金額は、H31年10月の消費税10%導入を考慮しています。

2 調査研究活動

コンクリート分野（リサイクル材料を用いたポーラスコンクリート等のコンクリートの軽量化）について調査研究活動を進めます。

1-4 技術支援事業

H31年度のポイント

経営改善計画3ヶ年は概ね計画どおり事業実施。4年目以降も技術支援内容の充実や職員の技術力向上により業務の継続と拡大に取り組む。

また、老朽化が進む市町村インフラの効果的・効率的な維持管理が課題となっており、県が運用開始したインフラ維持管理システムの活用を含め、維持管理に関する支援の強化・充実に取り組む。

- 県・市町村からの受託業務を計画的かつ効率的に実施します。
- 市町村の建設工事からメンテナンスまで総合的に支援します。
- インフラ維持管理システムを運用・管理し、市町村への普及拡大を目指します。
- 橋梁点検の支援・体制づくりを強化します。
- 建設 ICT 活用による生産性向上・業務効率化への取組を推進します。

1-4-1 技術支援業務

【業務概要】

- ・県、市町村からの各種受託業務を計画的かつ効率的に実施します。
- ・トンネルなど特殊工事の積算に取組み、積算技術の向上、品質アップを図り、発注者（県、市町村）の支援を充実します。
- ・市町村の工事積算・現場技術業務、橋梁補修アドバイス業務、さらに新規で検査補助業務を実施し総合的な市町村支援を進めます。また、災害発生時には H30 年度の実績を生かし、迅速かつ確実な災害復旧支援を行います。
- ・県が H30 年度運用開始したインフラ維持管理システムの運用・管理、市町村への普及拡大、住民・ボランティア参画のためのインフラ維持管理技術養成講習支援を実施します。
- ・H31 年度から試行実施される橋梁直営点検において、県・市町村の点検・診断を支援し、法定点検（5年に1回）に伴う新たな支援の仕組み・体制づくりを進めます。
- ・建設産業における生産性向上を図る建設 ICT 活用における技術支援として、ドローンを活用した測量データの3次元化や橋梁等の台帳管理・電子化等の取組を進めます。

〔事業費総括表〕

（単位：千円）

区 分	H31 年度予算 A	H30 年度予算 B	増減額 A - B	備 考
受託（県）	73,654	60,990	12,664	
受託（市町村）	24,897	15,579	9,318	
災害復旧支援	3,000	3,000	0	市町村
ひびわれ相談	2,000	2,000	0	民間
ドローン空撮	350	350	0	県、市町村ほか
計	103,901	81,919	21,982	

(1) 受託 (県関係)

業 務 名	内 容	予 算 H31 年度 (H30 年度)
①工事積算補助 (継続)	設計業務委託成果品をもとに、発注者用図面作成、設計数量のチェック及び算出、工事価格の積算等を行います。 (H31) 60 件 (H30) 60 件	26,701 千円 (25,067 千円)
②ひび割れ診断 (継続)	センターのコンクリート診断士がコンクリート構造物に発生したひび割れの診断を行い、ひび割れ抑制の指導を行います。 (H31) 10 箇所 (H30) 10 箇所	1,777 千円 (1,710 千円)
③新技術・新工法 活用システム事前 審査 (継続)	県内の建設業者等で開発された新技術等の利活用の促進と製品の販路拡大を目的に、その工法及び製品が公共工事に活用出来るかどうかを事前に審査を行います。 (H31) 5 件 (H30) 5 件	913 千円 (828 千円)
④道路台帳等修正 (継続)	道路工事後の道路形状変更、供用開始の告示資料、道路台帳付図の修正、道路情報便覧更新作業、道路現況調査票や交付税基礎数値算定資料などの作成を行います。	15,172 千円 (15,737 千円)
⑤工事検査補助 (継続)	当初請負対象設計金額が 15,000 千円未満の合否判定のみの工事検査について、請負業者が作成した工事完成資料の事前確認を行います。 (H31) 60 箇所 (H30) 60 箇所	2,090 千円 (1,996 千円)
⑥電子成果品保 管・管理 (継続)	県の請負工事及び測量設計業務に係る電子納品成果品 (CD 等) をセンター内で保管・管理します。 (H31) 600 枚 (H30) 600 枚	2,048 千円 (2,208 千円)
⑦再生砕石及び再 生アスファルト合 材品質実態調査に 係る試験 (継続)	再生砕石は、既設の構造物 (コンクリート、アスファルト等) を破砕したものを原材料としており、原材料の均一性を確保することが困難なことから、新材と比べ品質規格を満足しないことが生じやすいため、センターにおいて、ふるい分け試験等を行い、品質を調査します。	1,061 千円 (831 千円)
⑧賃金水準等詳細 調査 (継続)	県発注工事において、専門業者 (とび、型枠、鉄筋等 5 業種) への下請契約が、適正な賃金水準で契約されているかどうか調査するもので、800 工種程度を対象に下請契約の見積金額と設計金額とを対比させた資料を作成します。 (H31) 800 工種程度 (H30) 800 工種程度	4,458 千円 (4,748 千円)
⑨建設工事下請取 引等点検調査 (継続)	県発注の建設工事に係る下請取引等について適正化を図るため、その取引状況 (下請代金の見積・契約方法等) が建設業法の規定に違反がないか点検調査を行います。 (H31) 約 200 件 (H30) 約 200 件	4,261 千円 (4,261 千円)
⑩土木工事共通仕 様書の改訂 (継続)	県の土木工事共通仕様書、施工管理基準等の改訂作業の支援と電子書籍化を行います。	1,764 千円 (1,692 千円)
⑪インフラ維持管 理技術養成講習支 援 (継続)	インフラ維持管理システムの実装後、インフラ点検を担う住民・ボランティア、市町村担当者を対象に維持管理技術を養成する講習を実施するとともに、システムサーバやタブレット端末等の保守管理を行います。 (H31) 1 回開催 (H30) 1 回開催	8,609 千円 (1,912 千円)
⑫橋梁直営点検・ 診断 (新規)	橋梁直営点検の点検実地指導、診断指導、健全度判定会の運営・とりまとめを行います。 (H31) 点検 50 橋 (H30) -	4,800 千円 (- 千円)
計		73,654 千円 (60,990 千円)

(2) 受託 (市町村関係)

業 務 名	内 容	予 算 H31 年度 (H30 年度)
①工事積算補助 (継続)	市町村が発注する工事のうち、専門的な技術を必要とする工事の積算を行います。 (H31) 18 件 琴浦町、境港市 (道路、下水道) (H30) 10 件 琴浦町、境港市、湯梨浜町	13,581 千円 (4,238 千円)

②現場技術 (継続)	市町村が発注する工事のうち、専門的な技術を必要とする工事の現場技術業務を行います。 (H31) 2件 境港市 (H30) 3件 境港市	2,598千円 (4,926千円)
③橋梁補修工事の積算、現場技術及び技術的アドバイス (継続)	市町村が発注する工事のうち、特に専門的な技術を必要とする橋梁補修工事に対するアドバイスをを行います。 (H31) 12件 倉吉市、境港市、岩美町、智頭町、八頭町、三朝町、琴浦町 (2市5町) (H30) 10件 倉吉市、境港市、岩美町、智頭町、三朝町、琴浦町、大山町 (2市5町)	7,972千円 (6,100千円)
④工事検査補助 (新規)	市町村発注工事の工事完成検査について、請負業者が作成した工事完成資料及び現地の確認を行います。 (H31) 倉吉市10件、湯梨浜町4件 (試行) (H30) -	746千円 (- 千円)
⑤賃金水準等詳細調査 (鳥取市)	(完了)	- 千円 (315千円)
計		24,897千円 (15,579千円)

(3) その他

業務名	内容	予 算 H31年度 (H30年度)
災害復旧支援 (継続)	被災状況等の調査、復旧工法等の技術的助言及び査定設計書等の作成を行います。 (H31) 5件 想定 (H30) 5件 想定	3,000千円 (3,000千円)
コンクリートひび割れ相談 (継続)	受注者からの依頼により、コンクリート構造物のひび割れをコンクリート診断士が調査し、ひび割れ発生の原因の特定、補修の要否の決定及び補修方法を記載した「ひび割れ診断報告書」の作成に併せ、ひび割れ抑制・防止対策等について受注者に指導します。 (H31) 20件 (H30) 20件	2,000千円 (2,000千円)
支援業務の効率化 (ドローンによる空撮等) (継続)	災害状況、工事進捗状況等の把握、ドローンを活用した測量データの3次元化を行います。 (H31) 5件 (空撮) (H30) 5件 (空撮)	350千円 (350千円)

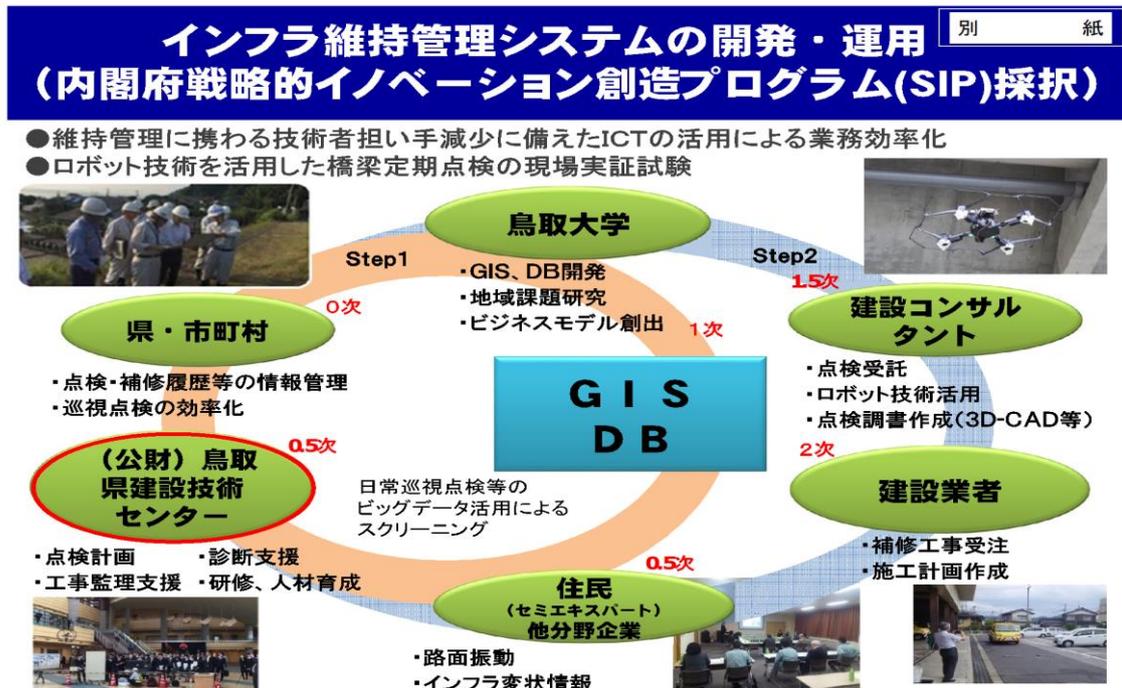
1-4-2 インフラ維持管理支援

(1) インフラ維持管理システム

- ・インフラの効率的な維持管理を推進していくため、鳥取大学と県の共同研究 (SIP) により道路インフラ維持管理システムが開発され、平成30年度県で運用開始、平成31年度には市町村で試行活用される。

※SIP:戦略的イノベーション創造プログラム (内閣府事業) H28~H30

- ・今後、インフラ維持管理システムを河川、海岸、砂防等の他のインフラに拡張 (予定)



インフラ維持管理システムの効果

● 日常点検の効率化と住民通報による損傷の早期把握と情報共有

現場パトロール

住民通報

GIS上に表示された損傷位置や対応状況

> 損傷情報をタブレットで登録し、管理者・補修業者がGISにより迅速に共有(市町村への展開を予定)

● 定期走行車両の路面振動データを活用した舗装劣化区間の抽出

スマホのセンサを利用⇒

- GPS、動画
- 加速度、角速度
- IRIの算出 (mm/m)
- 画像処理

低いIRIの区間

高いIRIの区間

倉吉駅周辺の路面性状 (H30. 3月時点)

> 道路パトロール車や宅配便等に振動センサを搭載し自動で路面損傷状況を把握

● 橋梁点検でのUAV・ロボット技術活用によるコスト縮減と安全性向上

UAV(ドローン)等の活用による写真撮影

- 安全性向上
- 点検期間の短縮
- コスト縮減

江島大橋(全長1446m、高さ44.7m)

輪型マルチコプタ(富士通)

打音検査飛行ロボット(新日本非破壊検査)

> H30年7月に江島大橋で4社のSIP開発技術を実証実験(ロボット技術を活用した点検指針を策定し大規模橋梁の点検を促進)

(2) インフラ維持管理システムのセンター支援

① システムの保守・管理

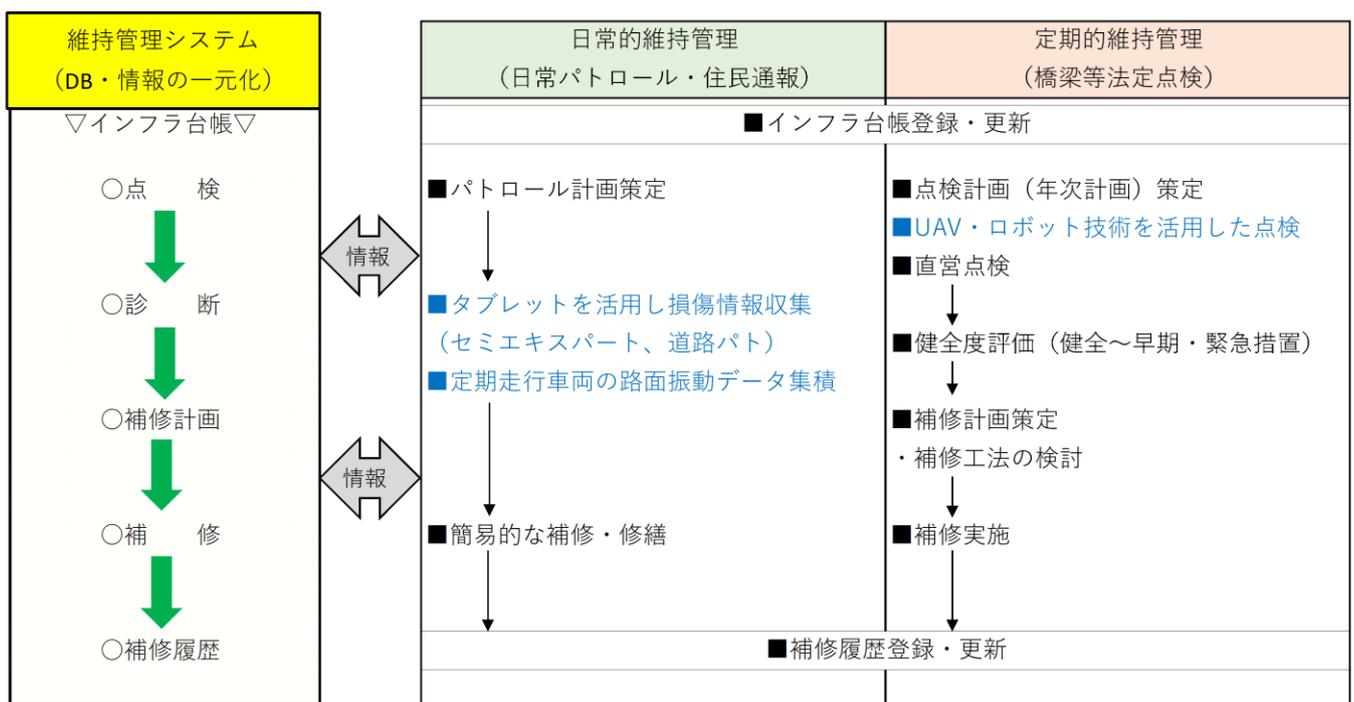
② インフラ維持管理技術養成研修・人材育成

- ・ 住民やボランティアの参画のため、技術養成講座開催(H30、H31 開催)
- ・ 市町村担当者への操作研修実施、問い合わせ対応

③ 市町村への利用拡大(全19市町村への普及)、システムを活用した支援

- ・ システム利用のPR(業務の効率化、維持管理コスト縮減等)
- ・ 市町村管理のインフラデータ(道路、橋梁、河川等)の管理
- ・ 点検・診断支援、経済的な補修工法の提案、補修履歴の整理

インフラ維持管理システムと維持管理



※青字：道路インフラ維持管理(SIP)

1-5 建設発生土受入事業

H31年度のポイント

経営改善計画の課題を踏まえ、公共事業を円滑かつ経済的に進めるため、県内全域で効率的に受入が出来る体制を整えます。

○東部地区

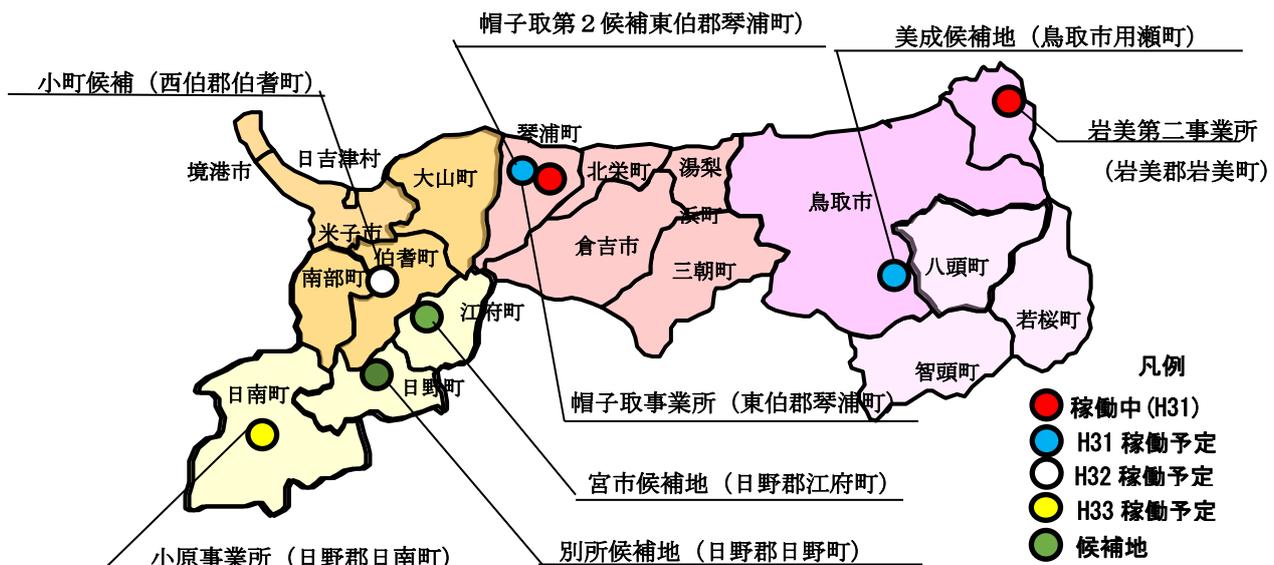
- ・美成候補地（鳥取市用瀬町）を、H31年度後期に開所します。

○中部地区

- ・稼働中の帽子取事業所（東伯郡琴浦町）が、H31年度中頃には受入が完了することから、隣接地の帽子取第2候補地を引き続き受入ができるよう開所します。

○西部地区

- ・米子管内では、小町地区（伯耆町）を選定し、H31年度に詳細設計業務委託を発注しH32年度早期開所を目指します。
- ・日野管内は、別所地区（日野郡日野町）、宮市地区（日野郡江府町）を候補地として選定しており、関係者の同意を得てH32年度早期開所を目指します。



【事業概要】

(1) 東部地区

- ・岩美第二事業所（岩美郡岩美町）はH31年度も引き続き造成工事を発注し、9.6万m²の受入を行います。
- ・第2三谷事業所（鳥取市河原町）(H29.11受入完了)は、H31年度も引続き場内の進入路舗装工事及び植林を実施し、地権者に返還する準備を進めていきます。

(2) 中部地区

- ・帽子取事業所（東伯郡琴浦町）は、H31年度中には受入が完了し、場内仕上工事等を実施し地権者へ返還します。

(3) 西部地区

- ・小原事業所（日野郡日南町）は、国土交通省が実施する鍵掛峠道路トンネル工事からの建設発生土を受け入れするため準備を進めてきたが、H32年度後期からの受入としています。

(4) 新規候補地

- ・新規候補地として、H29年度までに4箇所、H30年度に新たに1カ所選定し、開所に向け準備を進めてきた結果、H31年度には美成及び帽子取第2候補地の受入を開始します。
- ・小町候補地についてはH31年度には詳細設計業務委託を発注しH32年度開所にむけ準備を進めていきます。
- ・別所・宮市候補地については、引続き地権者及び下流地区の理解を得るため交渉を続けH32年度早々には開所し、県内全域で受入ができる体制を準備します。
- ・新規候補地の選定を引き続きH31年度も行い、受入地の確保を図ります。

新規候補地名	所在地	概算受入容量	開所年度	H31年度業務	備考
美成	鳥取市用瀬町	50万m ³	H31年度後期	詳細設計・各種申請・準備工事	地権者等関係者同意済 (H29概略設計完了)
帽子取第2	東伯郡琴浦町	40万m ³	H31年度中期	各種申請・準備工事	地権者等関係者同意済 (H30詳細設計完了)
小町	伯耆町小町	50万m ³	H32年度	詳細設計	地権者等関係者同意済
別所	日野郡日野町	10万m ³	H32年度	詳細設計	下流地区と交渉中 (H29概略設計完了)
宮市	日野郡江府町	48万m ³			地権者と交渉中 (H23概略設計完了)

受入収入一覧表 1,296円/m³(※岩美第二は2,484円/m³) (単位：千円) H31.10～H32.3月消費税10%で計上

地区	事業所名	H30年度予算 A		H31年度予算 B		増減額 B-A (千円)	備考
		土量(m ³)	収入(千円)	土量(m ³)	収入(千円)		
東部	第2三谷 (鳥取市河原町)	—	—	6,000	7,776	7,776	
	岩美第二 (岩美郡岩美町)	84,000	208,656	96,000	240,672	32,016	
	美成(新規) (鳥取市用瀬町)	5,000	6,480	30,000	39,600	33,120	
中部	帽子取 (東伯郡琴浦町)	35,000	45,360	11,000	14,256	△31,104	
	帽子取2(新規) (東伯郡琴浦町)	—	—	29,000	38,184	38,184	
計		124,000	260,496	172,000	340,488	79,992	

H31 年度 工事・詳細設計等予算一覧表

(単位：千円)

地区	事業所名	工事・詳細設計等予算額			
		予算額	H30 年度 予算額	H31 年度 予算額	備考
東部	第2 三谷 (鳥取市河原町)	34,000		34,000	場内舗装等工事 H31.5~H31.10
		21,000		21,000	場内植林工事 H31.7~H31.12
		16,000		16,000	調査測量業務(土地交換分合) H31.10~H32.3
	岩美第二 (岩美郡岩美町)	28,800	2,800	26,000	造成工事(H30年度繰越し) H31.1~H31.7
		50,000		50,000	造成工事 H31.7~H32.3
	美成候補地 (鳥取市用瀬町)	38,000	0	38,000	詳細設計(H30年度繰越し) H30.7~H31.6
		22,000		22,000	用地調査 H31.4~H31.9
70,000			70,000	準備・造成工事 H31.9~H32.3	
中部	帽子取 (東伯郡琴浦町)	40,000	5,000	35,000	造成工事(H30債務負担行為済) H30.12~H31.9
		40,000		40,000	造成・仕上工事 H31.9~H32.3
	帽子取第2候補地 (東伯郡琴浦町)	70,000		70,000	準備造成工事 H31.8~H32.3
		23,000	0	23,000	詳細設計(H30年度繰越し) H30.12~H31.6
西部	小原事業所 (日野郡日南町)	6,000		6,000	進入路法面修繕工事 H31.5~H31.10
	小町候補地 (西伯郡伯耆町)	40,000		40,000	詳細設計 H31.5~H31.12
	日野郡内新規 候補地	28,000		28,000	詳細設計 H31.5~H31.12
		17,000		17,000	準備・造成工事 H31.11~H32.3
	新規候補地調査	5,000		5,000	概略設計
計		548,800	7,800	541,000	

事業所別受入土量見込

(単位：千 m³)

地区	事業所名	受入期間	全体 土量	H30 受入土量	H30 末 受入累計	H31 受入土量	H31 末 受入累計	H31 末受入 可能土量	進捗率 (%)
東部	第2 三谷 (鳥取市)	H25 年 5 月～ H29 年 11 月	921	0	915	6	921	0	100%
	岩美第二 (岩美町)	H28 年 8 月～ H32 年度	200	50	56	96	152	48	76%
	美成(新規) (鳥取市)	H31 年～ H40 年	500	—	—	30	30	470	6%
中部	帽子取 (琴浦町)	H23 年 12 月 ～H31 年度	358	40	347	11	358	0	100%
	帽子取 2 (新規)(琴浦町)	H31 年～ H37 年度	400	0	0	29	29	371	7%
西部	小原 (日南町)	H33 年度～ H35 年度	218	—	—	—	—	218	—
計			2,597	90	1,318	172	1,490	1,107	

2 法人の運営・管理の運営

(1) 理事会及び評議員会の開催について

①理事会

開催時期	内 容
H31年 5月	H30年度事業報告、決算及び評議員会の開催について
H31年 10月	H31年度職務執行状況について
H32年 3月	H32年度事業計画書等の提出及び評議員会の開催について

②評議員会

開催時期	内 容
H31年 5月	H30年度事業報告、決算について
H32年 3月	H32年度事業計画書等について

(2) 監事監査の実施について

開催時期	内 容
H31年 5月	H30年度決算監査
H31年 11月	H31年度定例監査

(3) 建設技術センターまっりの開催について

①開催日 H31年10月20日(日)

②テーマ 「地域に愛される建設技術センターを目指して」

③主催 鳥取県産業人材育成センター倉吉校と合同で開催

④内 容(案)

- ・新分野進出紹介コーナー
- ・新技術・新工法紹介コーナー
- ・展示室(遺跡等:埋蔵文化財センター協力)
- ・災害等のパネル展示
- ・働く車(ダンプトラック等)の体験
- ・子供たちが土木に興味を持てるパネル展示及びクイズラリー

⑤参加人数 500人(予定)